

民主化闘争情報

No. 852
2012年2月23日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR連合は2月22日、都内・憲政記念館において、「浦和電車区事件全面勝利2.22報告集会」を開催し、「JR総連の組合暴力による被害者救済運動」の勝利を高らかに宣言した。

「浦和電車区事件全面勝利2.22報告集会」を開催！ JR連合「被害者救済運動」の勝利を高らかに宣言！

今回の集会は、2月6日の浦和電車区事件刑事裁判の上告棄却により、加害者である被告7名全員を有罪とする一審判決が確定したことを受けて、緊急に開催されたものである。

主催者を代表して坪井会長は、冒頭、事件の被害者である吉田光晴氏の奮闘を讃えるとともに、裁判の傍聴券獲得行動などに取り組んできた支援単組、さらには友誼団体、国会議員懇をはじめとする全ての関係者に謝意を示し、あらためて民主化闘争の完遂を訴えた。

来賓として、多忙な中、JR連合国会議員懇談会から伴野豊衆議院議員、三日月大造衆議院議員が駆けつけ、それぞれから激励の御挨拶を頂いた。

続いて、東日本大震災の取材で出張中のため、出席が叶わなかった西岡研介記者から寄せられた以下のメッセージ(抜粋)が紹介された。

本日会場にお集まりの皆さん。ご存じの通り、JRカクマルの連中は「お前らのやったことは犯罪だ」と司法の最高機関から断罪されても、彼らに尾っぽを振る自称「ジャーナリスト」や「作家」の連中や、票とカネ欲しさに彼らにすり寄るクズ議員らを招き「裁判には負けたが、内容上は勝利した」などと訳のわからない理屈をこね、遠吠えを繰り返しているようですね。また有罪となった7人の1人、山田知などというクソガキは、今はやりのツイッターなどで、「上告棄却！悔しい！」などという寝言を性懲りもなく呟いているそうです。

やはり、水に落ちたイヌは、徹底的にブチまわして、深く沈めるしかありませんな。今年でJR発足からちょうど四半世紀を迎えます。今日、完全勝利を勝ち取った「吉田光晴」さんの後ろには、この四半世紀の間に、JRカクマルにいじめ抜かれたにもかかわらず、吉田さんのように勇気をもって声を上げることができず、泣く泣く職場を去った無数の人たちがいたことは、皆さんが一番よくご存じだと思います。これまでより一層、怒りの拳を固め、渾身の力を込めて、奴らをブチまわしてください。私も私のやり方で、これからも、あの手この手で奴らを追い込みます。それぞれの立場で共にがんばりましょう。

吉田光晴氏「上告棄却で『あなたは人間だ』とあらためて認められた気がした」

集会は佳境に入り、吉田光晴氏が発言に立ち、「当時、浦和電車区では『お前は人間ではない』というようなことまで言われたが、今回の上告棄却で『あなたは人間だ』とあらためて認められたような気がした。しかし、私の闘いはまだ終わっていない。JR東日本に復職したものの、出向という立場であり、今年は原則出向期間満了の年だ。私の最終的な目標は乗務員に復帰することだけではなく、いかなる職場においても安全に安心して勤務をすることだ」と御礼と決意の言葉を述べた。

続いて、支援単組を代表して牧野JR西労組大阪地本青年女性委員長が決意を述べるとともに、民主化当該単組の山崎貨物鉄産労委員長、田原JR北労組委員長、今井JR東日本ユニオン委員長が力強く決意表明を行った。

最後に、「私たちJR連合は、今回の上告棄却を受け、ここに高らかに『勝利宣言』を行い、民主化闘争の今日的到達点を確認する。そして、国鉄改革の残滓である革マル派浸透問題を一日も早く解決し、JR労働界の大同団結と一元化という最終目標にむけ、あらためてすべてのJR労働者の総結集を呼びかけるものである」との、『勝利宣言』を全体で確認し、坪井会長の「団結ガンバロー」で集会は成功裡に閉会した。